

# 連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1318 2025/01/23 (THU)

発行 広島高校連絡会事務局

Email [renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp](mailto:renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp)

HP <http://ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/>

携帯 090-1180-7644 (村井義幸)

090-9738-8264 (望月照巳)

## 被爆者運動を継承する高校生たち



年末の12月21日(土)、広島YMCAで原爆被爆者相談員の会の主催による被爆者問題講演会がありました。「『原爆被爆者の基本要求』策定40年～ノーベル平和賞を喜びだけで終わらせない～」と題し、日本被団協・事務局次長の濱住治郎さんが講演をされました。その中で最後に「核と人類は共存できないということを世界に知らせなければなら



い」と訴えられました。

次に、若者を代表して広島高校生平和ゼミナールの生徒たちが今年度活動している主な3つを報告しました。一つ目は、「被爆者のボディマッピング」。畳一畳くらいの紙に被爆者の人生を形にして描きました。二つ目は、毎年夏に開催している「全国高校生平和集会」について。各県の多彩な取り組みや午後「ウクライナ戦争と核兵器廃絶の課題」など4つの分科会に分かれて話し合い、全国の仲間と交流を深めました。



3つ目は、「政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める高校生署名」です。1万筆以上集めて、3月26日に外務省に提出します。現在約7,500筆集まっています。広島でも1,000筆以上集めようと昨年12月には、元安橋の上でも署名活動をしました。1月6日(月)には、毎月6日と9日に行なわれている「6・9行動」に初めて参加し、「核兵器が使われる危険性が高まっている今こそ、唯一の戦争被爆国である日本が核廃絶の先頭に立つべきではないでしょうか」と訴えました。



その後、被団協の事務所を訪れ、理事長の佐久間さんから生まれて9カ月の時己斐で被爆した体験やこれまで被団協が「ふたたび被爆者をつくらない」ために取り組んだことやオスロでの行動を動画を見ながら、説明していただきました。話を聞いた高校生たちは、「被爆された方々が勇気をもってこれまで行動されたことを受け継ぎ行動していきたい」と決意を新たにしました。



▼「解同」支配の時代(と  
言っても、知らない人の方  
が圧倒的になつてゐるけれ  
ど) 私たちは、「民主主義」

の大切さを「あなたの言う事には反対である。けれども、あなたが発言する権利は、命を懸けても守りたいと思う」との言葉を引用して、表現の自由、発言の自由の大切さを主張した▼しかし今SNSに溢れる罵詈雑言を、匿名で撒き散らすというより、覆い尽くすことの悪害は、人の生命を奪つても止まらないまでの状況が広がつてい  
る▼匿名の悪罵は、「便所の落書き」と同じだと思つし、「呪いの言葉」と表現するのもそうだなと思  
う▼内田樹は、「呪いの言葉」を「表現の自由」として発してはいけないと言つ▼「便所の落書き」は、見るからに品性が無いとわかる。だから汚いけれど、影響も少ない▼SNSのそれは見かけ上、立派な明朝体で見分けがつかない。そして、それがネット空間を覆い尽くせば、特定の個人の精神をひどく傷つけ、肉体をも滅ぼしてしまふ▼テクノロジーの発展が、桁違いの儲けを生み出すことで、丁寧なルール作りは、出来ていない▼当面、匿名文は、即「読む価値がない」として読まないことが、身を守ることに必要と思われる。